

令和5年度 学校評価

「あきた型学校評価システム」
による自己評価

令和6年3月

秋田県立西目高等学校

目 次

学校経営方針及び今年度の重点目標	1
------------------	---

系列

文理系列	2
農業科学系列	3
土木系列	4
ビジネス会計系列	5
教養文化系列	6

業務部

総合学科部	7
総務部	8
教務部	9
生徒指導部	10
進路指導部	11
特別活動部	12
図書部	13
保健環境部	14
研修部	15
情報視聴覚部	16
農場部	17

学年部

1年部	18
2年部	19
3年部	20

教科

国語科	21
地歴・公民科	22
数学科	23
理科	24
保健体育科	25
芸術科	26
英語科	27
家庭科	28
情報科	29
農業科	30
工業科	31
商業科	32

学校経営方針および今年度の重点目標

① 教育目標

校訓「自彊不息」（じきょうやまず）の精神のもと、心豊かで高い志にあふれる人材を育成する。

- (1) 自ら学ぶ意欲を培い、情操豊かで創造性に富む人間の育成を図る。
- (2) 勤労と責任を重んじ、郷土の発展に貢献する人間の育成を図る。
- (3) 心身ともに健康で、思いやりのある心豊かな人間の育成を図る。
- (4) 社会の変化に柔軟に対応し、逞しく生き抜く人間の育成を図る。

② 教育方針

- (1) 豊かな人間性を育み、社会を生き抜く資質と能力を育成する。
- (2) 基礎学力の定着と、専門的知識や技能を身に付ける。
- (3) 総合学科の特色を生かし、多様な能力や適性に対応した教育を推進する。
- (4) 地域に信頼される活力に満ちた魅力ある学校づくりに努める。

③ 今年度の重点目標

「将来の自己実現に向けたキャリア教育の推進」

- (1) 基本的な生活習慣を身に付け主体性を育てる
 - ① 自ら進んであいさつができ、他者の気持ちになって生活できる。
 - ② ルールの重みを考え、いかなる場面でも、主体的に行動できるようにする。
- (2) 高い志を持った進路実現の達成
 - ① 新しい技術に順応しながら進路実現できる学習習慣を確立させる。
 - ② 学校を取り巻く先輩方の講話を開き自己啓発を図る。
- (3) 探究活動と特別活動の融合
 - ① 学校行事、生徒会活動、部活動、ボランティア活動への積極的な参加を促す。
 - ② 探究研究と体験的な学習活動をリンクさせ充実を図らせる。
- (4) 総合学科としての新しい地域連携
 - ① 地域社会の発展に寄与するため、地域のために何ができるか模索させる。
 - ② 自身が関わっている地域に対し、愛する心を育てる。

評価領域	文理系列
------	------

重点目標	普通教科の科目を中心に選択し、人文・社会・自然科学分野の基礎を学び理解を深めるとともに、受験に対応できる能力と態度を養成する。		P
現 状	明確な目標を早期（低学年）に設定できずに、3年次で安易に進路を変えてしまう生徒はいるが、例年と比較して明確な進路目標を持つとする生徒は増えているように思える。		
具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> (1) 進路目標に対応した、適切な科目選択の指導・助言に努める。 (2) 受験に対応できるわかる授業を目指して、生徒の実態や進路希望を踏まえた指導法を工夫する。 (3) 課外補習や添削等の個別指導、各種試験の事前・事後指導を徹底する。 (4) 学習ガイダンスや科目選択、模試分析等を通じて、教科・学年・進路指導部の連携を支援する。 		
目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> ・面談の充実（志望先や学習状況についての確認・助言） ・模擬試験等の有効活用（個別の成績状況の把握、面談での活用） ・受験に関する知識・情報の提供（幅広い選択肢からの適切な選択） 		
具体的な取り組み状況 (1～2月記載)	<ul style="list-style-type: none"> ・進学指導（進路指導部主導）：クラス担任との面談、教科個別添削指導、長期休業中補習、模擬試験、推薦委員会 ・系列科目選択ガイダンス（総合学科との連携） 		D
達成状況 (1～2月記載)	普段の面談指導や情報の提供を充実させ、長期休業中の補習や模擬試験は個々の志望先や能力などを熟慮した形で運営できた。3年生では多くの生徒が第1志望を達成できた。		
自己評価 (1～2月記載)	B	面談指導や情報提供など少しずつではあるが充実したものになっていると思える。しかしながらまだ組織的な取り組みと言えるまでには至っていない。担当者間の密な連携に基づいた進路指導体制の確立が肝要である。	C
評価基準	A：具体的な活動がなされ目標を達成できた B：具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない		
学校関係者評価と意見	A	生徒の多くが第1希望を達成できており、今後の課題も明確である。引き続き目標に向けて頑張ってもらいたい。	C
自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策 (学校評議員会終了後記載)	生徒が自分の進路について高い志を持って目標を設定し、それを確実に実現できるような指導体制を確立していく必要があると思う。生徒に提示していく目標、方策について、担当者間の意見共有を図っていききたい。年次進行でどのように生徒を育てていくか、共通理解をもっていきたい。		A

評価領域	農業科学系列
------	--------

重点目標	県や地域振興局（地元篤農家）と連携し、未来の農業者としての勤労観・職業観の育成を目指し、的確な進路選択ができるようにする。		P
現 状	3年生は農家出身者が少なく、即就農希望者はいない。大学進学後に就農を希望する生徒が1名、と専門学校希望が1名である。2年生は将来的に農業に携わる進路希望者は3名。1年生はまだ明確には決めてはいる様子ではあるが、就農に興味のある生徒は数名いる。		
具体的な目標	(1) 県農林部と連携し、高度化事業をなるべく多く企画する。 (2) 地域振興局と連携し、就農セミナーや地元篤農家と連携したインターンシップを行う		
目標達成のための方策	(1) 高度化事業を三つ以上企画し、生徒達に選択の幅を広げる研修を行う (2) 各種就農セミナーやインターンシップへ参加し、直接農業体験をすることで就農の魅力や農業の現状を理解させる。		
具体的な取組状況 (1~2月記載)	(1) 高度化事業を四つ企画・参加。これにより就農についての知識を深めることができた。特に、1・2年生は進路の一つに就農も考えたいという生徒が増えた。 (2) 就農セミナーやインターンシップにより、本校では授業体験できない『畜産』や『果樹』の体験ができた。		D
達成状況 (1~2月記載)	(1) 高度化事業参加により、1・2年生が就農に興味を持つ生徒が増えた。また、農業科学系列以外の教養系列の農業科目選択者も、「将来は就農という選択肢も有り」と答える生徒も増えた。 (2) 就農セミナーには全員が参加し、進路の一つに就農やフロンティア研修を考えるという生徒達が増加した。		
自己評価 (1~2月記載)	B	(1) 高度化事業の参加により、就農の様々な方策を知ることができた。県立大学に1名進学したが、将来就農の可能性もある。 (2) 就農セミナー・インターンシップに参加して終了ではなく将来的な就農について継続して取り組んでいきたい。	C
評価基準	A：具体的な活動がなされ目標を達成できた B：具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない		
学校関係者評価と意見	A	これからの農業はスマート農業技術やDXがますます必要となってくるので、新しい農業の方向を示し就農支援をして欲しい。	C
自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策（学校評議員会終了後記載）	地域との連携を強く期待されている（県農政部・地域振興局・ニューバィオファーム・折林ファーム等）と感じた。今後も「産学官民連携」を強化し、スマート農業を軸に就農へ興味を引き出す指導をしていきたい。 また本荘由利地域に限定せず、秋田県全域の農業の特徴を学びながら、就農の可能性を探る指導をしていきたい。今後は農業科学館や種苗交換会などにも生徒の興味・関心を大いに刺激する体験学習を企画したい。		A

評価領域	土木系列
------	------

重点目標	地域振興局と由利建設業協会と地域との連携を密にし、明確な進路意識や職業観の育成を目指し、工業（土木系）への積極的な進路選択ができるようにする。		P
現 状	昨年は公務員が1名であった。今年度は3名の希望者がおり、県外の公務員を希望している生徒もいる。地元定着を見据えて、1年次から目標を定めて着実に学力を高める必要がある。		
具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> ・就職と公務員希望者全員第一希望への合格 ・授業を展開しながら国家試験合格者を全国平均より高い測量士補40%、2級施工管理技術80%の合格率の達成をめざす。 		
目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> ・地域振興局と建設業協会連携した事業を実施し体験させる。 ・これまで3年次から取り組んできた資格取得を2年次からの授業で取り入れられるような授業展開をする。 		
具体的な取り組み状況 (1～2月記載)	<ul style="list-style-type: none"> ・3年生の就職希望者との面談を実施する。地域行事の測量大会や現場見学を年間で2回以上実施できた。公務員の全員第一希望への合格は達成することができた。 ・新たな事業として鳥海ダム見学を実施できた。 		D
達成状況 (1～2月記載)	<ul style="list-style-type: none"> ・公務員は全員合格し、国土交通省3名、秋田県庁1名、由利本荘市1名である。測量士補合格者は残念ながらいなかった。あと2問が1名あと3問が4名と合計5名まであと少しであった。 		
自己評価 (1～2月記載)	B	コロナで合格者が出ていないが数名の合格する可能性があった。コロナ前の合格者数を来年度の目標としていきたい。	C
評価基準	A：具体的な活動がなされ目標を達成できた B：具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない		
学校関係者評価と意見	B	公務員は受験者全員が合格し、すばらしい。中学生への宣伝にもなり今後も継続して取り組んで欲しい。	C
自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策 (学校評議員会終了後記載)	公務員全員合格は、一年生から継続して取り組み学習した成果である。国家資格も施工管理技術検定は2名の合格者を出すことだできた。測量士補はあと2問で合格の生徒が多く、その生徒の解答できなかった問題を1年生から集中的に取り組む継続して取り組んでいくことが今後の課題である。		A

評価領域	ビジネス会計系列
------	----------

重点目標	商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、ビジネスを通じ、地域産業をはじめ経済社会での健全で持続的な発展を担う職業人として必要な資質・能力を育てる。		P
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・知識の差はあるが、自分ができることを考え、お互いに協力して解決しようとする姿勢がうかがわれる。 ・自分の役割を考えて行動している。 		
具体的な目標	(1) 商業の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身につけるようにする。 (2) ビジネスに関する課題を発見し、自ら学び職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を養う。		
目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な場面を想定し、話し合いをすることで、より効果的な成果が出せるようグループ内でのディスカッションを進める。 ・実践を通してコミュニケーションの大切さ等を体験する。 		
具体的な取組状況 (1~2月記載)	<ul style="list-style-type: none"> ・3年生では販売実習の企画と実現のための活動を進めていき、様々な問題に対しての解決方法を考えながら進めていく。 ・2年生は、起業体験プログラムで、第三者に対するプレゼンテーションの大切さを理解する。 		D
達成状況 (1~2月記載)	3年生の販売実習では、地域との連携を通じて達成感を感じることができた。2年生はプレゼンテーションの大切さを理解し、企業体験プログラムで賞をいただくことができた。		
自己評価 (1~2月記載)	A	制約がなくなってきた活動が多くの場合で成果を出し、今後の学習につながっていくと考えている。	C
評価基準	A：具体的な活動がなされ目標を達成できた B：具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない		
学校関係者評価と意見	A	企業体験プログラムで賞を獲得するなど、外部評価も得ている。より高い目標を設定し達成して欲しい。	C
自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策(学校評議員会終了後記載)	第三者に対するプレゼンテーションはビジネスの場面では大切なものであることが理解でき、実践できたことは教師側からしても満足のできた成果であった。今後も視覚的な効果も含めスキルアップをしたいと考えている。		A

評価領域	教養文化系列
------	--------

重点目標	社会的教養を高め、多様な生活や文化について総合的に学び、地域社会に貢献できる知識と意欲および実践力を身につけさせる。		P
現 状	他系列と比較すると選択できる科目の幅はあるが、総合的に自分の進路や適性を考えて選べる自由度が少ない。系列横断的な学習によってさらに学びが深まると期待される。		
具体的な目標	能力適性、興味関心等の自己理解に努めさせ、進路目標を明確にさせる。生徒・保護者への積極的な情報提供に努め、適切な進路・科目選択を実現する。教科・科目間の連携をつよめ、一人一人の進路に合わせたきめ細やかな指導を充実させる。		
目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> ・系列ガイダンスでの詳細な説明 ・各教科科目における授業内での意識向上と実践的授業の実施 		
具体的な取り組み状況 (1~2月記載)	<ul style="list-style-type: none"> ・系列選択や科目選択を年次ごとに修正可能としている ・普通教科での選択科目の幅を拡大させた ・科目ガイドのWeb公開による一覧性向上 ・生徒の興味関心や専門性を意識した授業改善と工夫 		D
達成状況 (1~2月記載)	専門科目の希望者が多いため普通教科の選択科目も増やしたが、それでも収容できず、希望が叶わなかった生徒も出てしまった。		
自己評価 (1~2月記載)	B	教養文化から短大等への進学希望者も出るので、文理系列とのカリキュラム上の相互乗り入れを拡大すべきではないか。	C
評価基準	A: 具体的な活動がなされ目標を達成できた B: 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない C: 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない		
学校関係者評価と意見	B	途中年次からの進学希望者にも対応できるようにして欲しい。希望者のバランスに関する分析・対策もして欲しい	C
自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策(学校評議員会終了後記載)	教養文化の生徒は生活科学科的な進路(理美容・服飾・調理から専門学校)の生徒と、地元の製造系企業の志望者が主体である。後者に関しては普通科目(国語・地歴など)である程度対応できるが、前者に関しては施設・設備の物理的な限界から希望者の調整が必要になる年度もある。中途から短大等に志望変更する生徒も一定数いるので、文理系列とのカリキュラム上の相互乗り入れを検討する必要があると思われる。		A

評価領域	総合学科部
------	-------

重点目標	(1)総合学科としての特色を生かす。 (2)多様な選択肢から、自分の進路を考えられる主体性を育む。 (3)キャリア教育の視点から進路実現に繋がる教育を行う。 (4)総合学科の円滑な運営を行い、生徒の活動の充実をはかる。		P
現 状	(1)各系列における学びの充実をはかっている。 (2)系列・科目選択指導を学年部と連携して行っている。 (3)学年部、進路指導部等と連携して学力向上、進路指導を行っている。 (4)生徒が地域の発展に寄与する活動ができる環境を整えている。		
具体的な目標	・目標達成のために適切な系列および科目を選択させる。 ・本校の活動を地域に知ってもらい、地域社会との連携を深める。		
目標達成のための方策	・科目選択に関するガイダンスの充実と指導の徹底をはかる。 ・「新志芽通信」を毎月発行する。地域産業祭（ゆりほんマルシェ）へ積極的に参加する。		
具体的な取り組み状況 (1～2月記載)	・科目選択ガイダンスで、各系列主任が話してほしい内容をまとめ、統一した。 ・「新志芽通信」を毎月発行し、地域社会や中学生に向けて情報発信を行った。ゆりほんマルシェへ出店した。		D
達成状況 (1～2月記載)	・新学年の系列科目選択では、大きなトラブルはなく、スムーズに行うことができた。 ・「新志芽通信」では学校行事だけでなく、日々の体験活動や講演会、探究発表、部活動の活躍など生徒が生き生きと活動している様子を発信することができた。ゆりほんマルシェでは、ビジネス、農業の販売に加え、教養文化系列の家庭科の制作物の販売、オリジナル創作パンの販売も行い、大好評であった。		
自己評価 (1～2月記載)	A	「適切な系列および科目の選択」、「新志芽通信の毎月の発行」は達成させることができた。	C
評価基準	A：具体的な活動がなされ目標を達成できた B：具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない		
学校関係者評価 と意見	A	適切な系列および科目の選択の指導を充実させてほしい。地域への発信・連携で大きな成果を得たと評価できる。	C
自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善	系列・科目選択については、より丁寧な説明と指導を心がけていく。新志芽通信による外部への発信は継続して行っていく。行政や企業との連携については、最も人数の多い教養文化系列の生徒を活用する方策を考え、実行していきたい。		A

評価領域	総務部
------	-----

重点目標	関係諸機関との連携を図りながら、学校行事および渉外業務を推進し、P T A・同窓会が円滑にかつ効果的に機能するように努める。		P
現 状	(1) 行事関係に関してはコロナ前の状態に戻しながら行われており、生徒の行事に臨む姿勢もよい。 (2) P T A活動においても計画している事業の実施のために準備している。		
具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> 校歌の歌う機会を多くし、行事において高らかに歌えるようにしていく。 P T A役員等を通じて保護者との連携強化を図り、的確な情報発信に努める。 		
目標達成のための方策	(1) 学校行事(特に儀式的な)の円滑な運営を図り、充実した成果を収めるように努める。 (2) 学校・P T A・同窓会との密接な連絡調整に務める。		
具体的な取り組み状況 (1~2月記載)	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事の計画・実行・反省を踏まえて、より良い儀式ができるように準備をしていく。 P T Aの活動を積極的に行うために、意見やアイデアを聞く機会を増やしていく。 		D
達成状況 (1~2月記載)	<ul style="list-style-type: none"> 全校生徒が出席しての儀式が始まっているが、校歌に関しては、よく歌えていると思われる。 P T A活動として新志芽祭へ休憩所の提供など関わりを持った活動ができつつある。 		
自己評価 (1~2月記載)	B	P T A活動は大分良くなってきているが、同窓会の活動にもう少し関わっていく必要がある。	C
評価基準	A: 具体的な活動がなされ目標を達成できた B: 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない C: 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない		
学校関係者評価と意見	B	同窓会への関わりを増やすための方策について、重点事業を設定し、連携を図ってほしい。 保護者もP T A活動には不慣れなはず。前例にとらわれず、新たな活動の仕方があっても良いと思う。	C
自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策(学校評議員会終了後記載)	<ul style="list-style-type: none"> 学校、P T A、同窓会が一つになれるような行事を模索し、少しずつ形にしていけるよう計画していきたい。 同窓会に関しては、同窓生の先生方の力を借りながら新しい取組ができないものか考えてきた。 		A

評価領域	教務部
------	-----

重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学習環境の整備と授業時数の確保に務める。 ・効果的な教育課程を編成する。また、そのための各種統計資料等の分析をする。 ・新校務支援システムに対応するため操作方法などを熟知する。 ・新教育課程に対応した評価について、職員の共通理解を図る 		P
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・講座数が多いため時間割が複雑で、授業交換が難しく、出張や年次を自習で対応しなければならない科目がある。 ・日々の出欠を入力し忘れたり、成績処理でミスがみられる。 ・実施してみて初めて分かることも多く、手探りの状態である。 		
具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> ・やむを得ず自習とする場合には課題等を準備する。 ・校務支援システムを活用して、出席把握や成績処理を確実に行う。 ・昨年度1年生で行った評価方法を2年生に導入する際の問題点を見つける。 		
目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> ・教科担任が自分の授業に責任を持ち、課題を準備する。できるだけ授業をまとめて授業交換がしやすい時間割を目指す。 ・校務支援システムの運用に関して操作マニュアルを作成する。 ・昨年度1年生の評価に関わった教員を中心に2年生の科目の評価を検討する。 		
具体的な取組状況 (1~2月記載)	<ul style="list-style-type: none"> ・Google classroomなどを活用し、学習内容が定着するような課題を準備する教員が増えた。 ・操作で不明な点は業者や他校の担当者と連絡を取り、解消に努めた。 ・3観点による評価の方法を日々の授業や定期考査の問題作成においても強く意識できるようになった。 		D
達成状況 (1~2月記載)	<ul style="list-style-type: none"> ・教員側が様々なツールを持ち、授業のやり方に工夫が見られた。 ・校務支援システムの仕様に関して理解が不十分だった。 ・教育課程が新旧混ざってしまったため、混乱する場面が見られた。 		
自己評価 (1~2月記載)	B	<ul style="list-style-type: none"> ・教育課程と時間割をセットで見えていくことが必要である。 ・校務支援システムの操作マニュアルを整備し、毎回見直すことでよりわかりやすい内容にする。 ・3観点による評価に対する教員の理解にばらつきが少なくなったが、日々の授業を含めて全体を見通す必要がある。 	C
評価基準	<p>A: 具体的な活動がなされ目標を達成できた B: 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない C: 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない</p>		
学校関係者評価と意見	B	新旧教育課程の混在や新システムの導入など厳しい状況ではあったが、解決のためのアプローチを継続してほしい。	C
自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策(学校評議員会終了後記載)	<p>来年度、評価の方法については全学年で新課程となるので学校全体での取り組みにつなげたい。 校務支援システムについては今年度課題となる部分の解決に向けて、本校内部の仕様を変更したり、業者に対してシステムの改修を依頼したりするなど対応していきたい。 入学者数の減少が教育課程に大きく影響するので、各系列・各科目と連携を取り、より効果的な教育課程の編成に努めたい。</p>		A

評価領域	生徒指導部
------	-------

重点目標	挨拶・言葉遣い・整容・立ち居振る舞いの指導を徹底し、基本的な生活習慣の確立に努める。また、問題行動が起こらないよう、情報発信や生徒の観察をする。		P
現 状	例年より遅刻する生徒が多い傾向にある。また、整容についてもやや乱れている感がある。改善のために、毎朝昇降口でのあいさつや整容の指導を実施したり、節目の時期を中心に整容検査を実施し身だしなみの指導をしている。 人間関係のトラブルはみられるが比較的初期の段階で把握・対応できている。		
具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> ・整容指導や挨拶等に関する日常の指導を継続して行う。 ・問題行動を未然防止するための情報発信や生徒の観察をする。 ・いじめアンケートの実施と事後指導をきめ細かく行う。 		
目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> ・教師間で共通理解を図り、情報を共有して全職員で指導する。 ・各学年部や各分掌との連携を密接にし、問題やその兆候があった場合は迅速かつ適切な対応をする。 ・家庭との連携を密にし、速やかに報告して協力しながら指導する。 		
具体的な取組状況 (1～2月記載)	<ul style="list-style-type: none"> ・朝の昇降口指導や整容指導を継続的に実施。 ・整容、振る舞い、SNS等の使用の仕方について集会等で指導。 ・いじめに関するアンケートを2回実施。 		D
達成状況 (1～2月記載)	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣が定着している生徒が多いが、一部の生徒の遅刻が改善されない。整容も同様の傾向がある。 ・いじめに関するアンケートを2回実施したことで一定の成果はあった。アンケート以外にも積極的に教員に相談できる関係が構築できている。 		
自己評価 (1～2月記載)	B	いじめの予防は安心した学校生活を送る上で不可欠である。いじめの兆候の段階で把握できていることが多いが、未然防止対策を充実させたい。	C
<p>評価基準</p> <p>A: 具体的な活動がなされ目標を達成できた B: 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない C: 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない</p>			
学校関係者評価と意見	A	<ul style="list-style-type: none"> ・生活習慣などは学校だけで実現できる項目でもない。PとDの記述からすると成果を上げていると判断できる。 ・SNSが日常生活に欠かせないツールとなっていることから、いじめ問題は複雑化していると思う。生徒の声が届きやすい環境作りも必要になる。 	C
自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策(学校評議員会終了後記載)	基本的な生活習慣の確立については一定程度評価をいただいた。また、いじめについても初期対応については一定程度評価をいただいた。 だが、いじめの未然防止については改善の余地がある。全生徒を対象とした発達支持的な生徒指導を学校をあげて組織的・計画的に行っていくことが必要であると考えている。目に見えた成果を確認しづらい活動にはなるが、次年度取り組んでいきたい。		A

評価領域	進路指導部
------	-------

重点目標	『自彊不息』の精神を忘れず、自己を励まし、継続して努力を続けることで、社会の変改に対応して生き抜くことのできる人材を育成する。		P
現 状	全体としては、まだ総合学科や専門系列の強みを十分に生かし切れていないとは言えない。また、個人としては自己理解や他者理解、思考力が不十分なため、進路目標を設定したり、進路先を研究したりするなど、自分の進路に対して主体的に行動できない生徒がいる。		
具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的な進路活動を促し、進路達成率100%を実現する。 ・総合学科の特色を生かした入試での大学合格者を輩出する。 		
目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> ・データ等を効果的に活用しながら「理想」と「現実」の距離感を生徒と教師で共有し合い、問題解決のために取り組んでいく。 ・キャリア教育を推進し、教育活動を通して知識・技能を高めさせ、問題解決力や思考力を身に付けさせる。 		
具体的な取り組み状況 (1~2月記載)	<ul style="list-style-type: none"> ・地元の大手企業を受験する生徒や公務員志望者のため、本校土木系列の教員や専門学校職員の講師として対策講座を実施した。 ・国公立大学の推薦入試に向け、従来の個別指導やキャンパス見学会、大学教員による出前講義等を実施した。 ・学年部とも連携しながら先輩講話や進路別ガイダンス、個人面談などを通して進路活動への啓蒙活動を行った。 		D
達成状況 (1~2月記載)	先生方の御指導のもと国公立大学や難関企業への合格者だけでなく、延べ人数だが、10名の公務員試験合格者を輩出することができた。		
自己評価 (1~2月記載)	B	国公立大学受験者が例年に比べ少なかった。ガイダンスの実施など、早期から意識を醸成させる必要性を痛感している。	C
評価基準	A: 具体的な活動がなされ目標を達成できた B: 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない C: 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない		
学校関係者評価と意見	B	指導の成果は着実に出ています。早い時期から、上級学校への意識を醸成させていけるかが今後の課題である。	C
自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策 (学校評議員会終了後記載)	評議員の方々から一定の評価を得られたことは、進路指導部だけでなく学校職員全体のがんばりがあったからだと考える。本当に感謝したい。現在も進路別ガイダンスや秋田県立大学出前講義など、特に四年制大学へ意識を向けさせる取組を続けているが、まだまだ十分とは言えない。教育関連企業とも連携を取りながら、次年度は具体的な対策を講じていきたい。また、引き続き進路達成で終わる指導ではなく、生徒の今後の「生き方」につながるような指導を目指したい。		A

評価領域	特別活動部
------	-------

重点目標	望ましい集団生活を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図ることができる。西目高校生として誇りを持って校内外で躍進しようとする積極的な態度を身につける。		P
現 状	HR担任・部活動顧問の働きかけによって、全体的には学年を追って生徒の心身の成長が見られる。部活動は生徒数減少の影響もあり厳しい状況である。諸学校行事においては、生徒会執行部をはじめ各委員会の意欲的な参画が見られるなど、組織的な取り組みがある。		
具体的な目標	(1) 学校行事、生徒会活動、部活動などへの生徒の積極的参加を促し充実させる。 (2) 生徒会活動や部活動を通して、整容面や行動面の生活向上を促進し、社会人として求められる力を育ませる。 (3) ボランティア活動など地域貢献・社会参加の活動推進を図る。		
目標達成のための方策	・1年生全員の部活動体験の実施。 ・全部活動に対して、年度当初における共通理解事項の伝達の徹底。 ・新志芽祭において生徒会執行部を中心としたルール作り。 ・ボランティア活動の情報発信と呼びかけによる参加者の広がり。		
具体的な取り組み状況 (1～2月記載)	・顧問会議の開催。 ・1年生全員の部活動入部体験。 ・各種学校行事の計画と生徒の自主的活動の促進。 ・壮行会、全校野球応援、全校サッカー応援の実施。 ・運動部活動の大会報告会の実施、賞状伝達式による奨励。 ・ボランティア委員会による奉仕活動のアナウンス、実施。		D
達成状況 (1～2月記載)	日程や内容を適宜検討しながら予定通りに実施できている。部活動や諸学校行事、課外活動において、生徒の積極的な参加が見える。それらを適切に評価するシステムを構築していきたい。		
自己評価 (1～2月記載)	B	校内外でのさまざまな活動がコロナ禍前の平常に戻りつつある。蓄積されてきたノウハウが散逸している部分もあったが、それゆえに新たな課題に挑戦する気概も感じられた。	C
評価基準 A:具体的な活動がなされ目標を達成できた B:具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない C:具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない			
学校関係者評価と意見	A	学校評価で学校行事の充実度が高い（生徒・保護者・職員の肯定割合が高い）ことは、生徒の自主性が生かされ、楽しい活動になっていることが伺える。コロナ禍を脱却して、新たな課題も発見できていることなども評価できる。	C
自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策（学校評議員会終了後記載）	学校行事や部活動においても、今年度はコロナ禍前に比べて活動範囲が大きく広がったと言える。この経験から新たに見えてきた課題を肯定的に捉え、今年度作り上げてきたものを共有財産として蓄積していきたい。生徒活動の充実度を上げることと、生徒数減少による活動縮小の相反する課題をいかに乗り越えていくか、生徒・職員全体で知恵を出し合っていきたい。		A

評価領域	図書部
------	-----

重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・読書、教科、資料のセンターとしての整備。 ・読書ならびに文化活動の機会提供。 		P
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・1年生に本好きな生徒が数名いて、昼の開館時の常連になっている。 ・大半の生徒は、授業で来る以外は自分から来館することはない。 		
具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の希望する図書を積極的に入れる。 ・授業で活用してもらえるような選書をする。 ・図書委員会の活動維持、活性化を図る。 		
目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> ・朝読書導入時には開館時間を増やす。 ・ここ数年続いている国語科との連携を続ける。 ・図書委員会の各学年企画を支援する。 		
具体的な取り組み状況 (1～2月記載)	<ul style="list-style-type: none"> ・朝読書導入時は、朝も開館した。 ・1年生国語の授業で、ビブリオバトルを行った。 ・3年生国語では、図書紹介の課題を出した。 ・図書委員会の学年企画で五行歌コンクールを行った。 		D
達成状況 (1～2月記載)	何かを新しく始めることはできなかったが、昨年度まで続けてきたことは、かろうじて維持できた。		
自己評価 (1～2月記載)	B	常連や図書委員、国語科など個人的なつながりでの活動が多い。もっと組織的に活動できたらよいと思われる。	C
評価基準	A: 具体的な活動がなされ目標を達成できた B: 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない C: 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない		
学校関係者評価と意見	A	新しいことを始めることはできなかったとあるが、具体的な目標と目標達成のための方策は実行できている。	C
自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策 (学校評議員会終了後記載)	評議員の方のお話を伺い、若者の本離れを改善しようというような目標ではなく、方策を伴う具体的な目標をあげ、実行していくことが大事だと考えた。今年度まで続けてきた国語科との連携や学年部の読書活動の支援、図書委員会の生徒の活動などを足がかりにして、それを伸ばす形で、読書・文化活動を少しでも増やしていきたい。		A

評価領域	保健環境部
------	-------

重点目標	(1) 生徒の健康保持、増進に努める。 (2) 教室環境の改善に努める。		P
現 状	コロナ5類移行に伴い、マスク着用率やうがいの意識が低くなった。健康保持・増進に向け啓発を行っているものの、反応には個人差がある。清掃活動の取組状況は概ね良好であるが、十分に行えていない箇所もある。		
具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の健康状態の把握、検査事後措置を徹底する。 ・清掃活動や環境美化に対する意識向上を図り、生徒が自ら環境改善に取り組めるよう工夫する。 		
目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> ・健康診断及び身体測定の計画的な実施、「ほけんだより」の発行、保健委員会や生活美化委員会の活動等を推進する。 ・学校医・薬剤師の協力を仰ぎながら健康保持、増進を講じていく。 		
具体的な取組状況 (1~2月記載)	<ul style="list-style-type: none"> ・養護教諭及び保健委員会と生活美化委員会の顧問が生徒の活発な活動を推進している。 ・トイレ清掃担当の負担が大きい。外部委託も含め、トイレの清掃方法について検討していく必要がある。 		D
達成状況 (1~2月記載)	健康診断は滞りなく終了し、「ほけんだより」の定期発行、保健委員会によるポスター掲示などの啓発活動も行うことができた。清掃活動の不十分な箇所は、担当職員に指導の徹底を呼びかけた。		
自己評価 (1~2月記載)	B	換気の励行等課題もあるが、生徒の健康保持増進と、清掃活動や環境美化に対する意識向上は達成できた。	C
評価基準	A: 具体的な活動がなされ目標を達成できた B: 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない C: 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない		
学校関係者評価と意見	B	新型コロナ5類移行に伴い、以前と状況が変わった部分もあるが、引き続き健康意識を高める取組を継続してほしい。	C
自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策(学校評議員会終了後記載)	生徒の健康保持増進と清掃活動や環境美化に対する意識向上は、概ね達成できたが、2月のインフルエンザ流行を予防できなかった。学校保健委員会での提言を参考に、基本的な感染予防対策の徹底を図るための取組を継続していきたい。		A

評価領域	研修部
------	-----

重点目標	校内外での研修成果を共有して教育活動への活用を図り、組織的な授業改善を推進するとともに、教員の資質向上に資する。		P
現 状	本年も新教育課程に沿った授業展開や評価の改善等の取組が継続された。各系列では習得すべき知識・技能が多い中で、生徒が自主的に考え行動する「探究型授業」への取り組みが行われている。		
具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> ・総合学科の内容を教師が理解しあい、相互に学習効果を高め合う研修を進める。 ・様々な場面に活用することでさらにICTを利用した教育を進める。 ・授業アンケート結果を有効活用する。 		
目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> ・授業理解を深めるだけでなく、相互理解の場面など様々なICTの活用を進める。 ・各教科、系列の取組状況を教員相互が体験する。 ・進路指導など各種取組と連携し、生徒の興味関心を高める。 		
具体的な取り組み状況 (1～2月記載)	<ul style="list-style-type: none"> ・教育センター等の研修への参加。授業アンケート(7、12月)実施。 ・教師主導で画像やデータ確認などに活用するだけでなく、生徒がICTを活用できるように授業展開されている。 ・総合学科の特徴を生かした、相互の授業研修を実施。 		D
達成状況 (1～2月記載)	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が自主的に、発表、課題解決、他の生徒との連携などにICTを活用できている。 ・各系列の授業に教員も参加し、学び合いを進めた。 		
自己評価 (1～2月記載)	A	各系列の特性に合わせた授業展開がなされ、教員相互の理解が深まった。	C
評価基準	A:具体的な活動がなされ目標を達成できた B:具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない C:具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない		
学校関係者評価と意見	A	得られた知見を反映させて欲しい。教員の資質向上が見られたと思う。ICT活用のメリットが多方面に波及している。	C
自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策(学校評議員会終了後記載)	授業アンケートの活用や、相互研修、教科研究などを通して個々の授業内容、指導方法を向上させる。 総合学科の特色を生かし、教師相互の研究や、実践を学び合い、連携させてゆくように授業展開に結びつけて行く。 今後も様々な形での研修を進め、研修成果を周囲にも反映させて行く。		A

評価領域	情報視聴覚部
------	--------

重点目標	校内LANの管理に努め、利用しやすい環境を整える。 各分掌・教科との連絡を密にして、情報教育の推進と情報機器の活用に努める。 総合学科の特色を地域に発信する環境整備を推進する。		P
現 状	業務系に校務支援システムが導入され、共有フォルダがクラウド化された。 GIGAschoolは定着しつつあるが生徒端末の経年劣化が激しい。		
具体的な目標	セキュリティと使いやすさを両立した校内LANの整備と活用 GIGA_schoolとGoogleClassroomの授業・生徒把握への活用 学校HP等を利用した校内外への情報発信		
目標達成のための方策	GIGA_school端末やアクセスポイントの管理と整備 chromebookや電子黒板などの使用に関する技術的な支援 授業や日常の活動にclassroomを活用することによるスキル向上		
具体的な取り組み状況 (1～2月記載)	生徒の端末管理にも問題はあるが経年劣化による機能不全が多く、定員割れによる予備機を全てを使い切る可能性が高い。 行事などの資料配付や日常的な調査など、正規の授業以外の用途にもGoogleClassroomが活用されている。		D
達成状況 (1～2月記載)	授業の課題配付をClassroomで行うことが日常的になっている授業も多いが、使用の度合いには教員によって差が見られる。		
自己評価 (1～2月記載)	B	生徒・教員ともに利用が定着しているが、機材面ではギリギリの運用であり、使えなくなったときの不便も大きい。	C
評価基準	A：具体的な活動がなされ目標を達成できた B：具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない		
学校関係者評価と意見	B	次年度はハード面の整備課題を含む目標・方策を作って実践して欲しい。	C
自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策 (学校評議員会終了後記載)	業務系の校務支援システムはいろいろ問題がある中でも活用が進んでいる。入学時からの資料がシステム内で完結する現1年生に関しては利便性も上がってくると思われる。 生徒の個人端末については在学中に期限切れとなる2025年度入学生からのBYOD導入に向けて運用方法を検討する必要がある。GoogleClassroomの活用についても個人のスマートフォン等の利用も含めて有効な活用方法を検討したい。		A

評価領域	農場部
------	-----

重点目標	農業学習の実践の場として、農場実習や農場施設・設備の充実を図る。また、地域との連携を図り、先進的な農場運営に努める。 ※サツマイモ（ニューハイツファーム）、水田（折林ファーム・楡引稲作生産組合）また、教員の知識・技能の向上の為、研修に参加する。		P
現 状	作物：「ひとめぼれ」と「つぶぞろい」の生産 野菜：砂地を利用した野菜栽培 草花：春の苗物、冬の鉢物の栽培 研修：職員数が少なく、研修に参加する機会を得ることが難しい		
具体的な目標	作物：一等米の評価と食味Aの評価 野菜：サツマイモ栽培の労力削減 草花：切り花の栽培 研修：部門に関連する研修への参加		
目標達成のための方策	作物：重点的に肥料管理を行い倒伏防止 野菜：黒マルチ栽培で除草作業の軽減 草花：切り花の試験栽培 研修：県農林部との連携を密にする		
具体的な取組状況 (1～2月記載)	作物：4.8haの内、3.3ha「ひとめぼれ」1.5ha「つぶぞろい」作付け。夏場の溝切りと水田内の除草等を丁寧に行った。 野菜：サツマイモの畝は全て黒マルチ栽培した。畝間は管理機と場所によっては人手で行った。 草花：人員不足や夏場の停電の影響により計画通りには行かなかった。 研修：サキホコレ研修会、産業人材育成研修会への参加		D
達成状況 (1～2月記載)	作物：地域奨励米の「ひとめぼれ」で一等米の評価を頂いた。 野菜：黒マルチ栽培により、除草作業の軽減することが出来た。サツマイモに関しては同窓会と連携し干し芋を製品化した。 草花：人員不足により販路開拓までには至らなかった。 研修：産業人材育成研修会では『ファーム』の活用方法など、現場で活用できる研修となった。		
自己評価 (1～2月記載)	A	作物・野菜部門で地域連携（折林ファーム、ニューハイツファーム等）を図ることができた。これにより実物を活用した授業展開が飛躍的に向上した。また研修では、現場で使用している機器を発展的に活用する技能を獲得できた。これらのことを次年度にも活かしたい。	C
評価基準	A：具体的な活動がなされ目標を達成できた B：具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない		
学校関係者評価と意見	A	農業法人との連携や産業人材育成会の活用など積極的に行い、成果を上げ技術と意欲を伸ばしている。	C
自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策（学校評議員会終了後記載）	地域との連携を強く期待されている（県農政部・地域振興局・ニューハイツファーム・折林ファーム等）と感じた。今後も「産学官民連携」を強化し、スマート農業を軸に就農へ興味を引き出す指導をしていきたい。 また本荘由利地域に限定せず、秋田県全域の農業の特徴を学びながら、就農の可能性を探る指導をしていきたい。今後は農業科学館や種苗交換会などにも生徒の興味・関心を大いに刺激する体験学習を企画したい。		A

評価領域	1 年部
------	------

重点目標	<ul style="list-style-type: none"> 心と体を鍛え、規律のある生活ができる。 思いやりと協調性を持って周囲と人間関係を築くことができる。 語彙力を高め、将来の進路実現の基礎を身につける 		P
現 状	<ul style="list-style-type: none"> 体調不良で欠席する生徒が多い。 人間関係のトラブルを経験しながら、徐々に他人を理解してきた。 朝学習で読書習慣が定着している。 		
具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> 社会人として元気に挨拶ができるようになる。 学校行事等を通じ、他人を尊重し協力して取り組む姿勢を育てる。 進路意識を持たせるため、学校関係者以外の人をふれあう。 		
目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> 普段から積極的に生徒に声かけをし、信頼関係を構築する。 担任を中心とした個性あるクラス経営を実現する 「産業社会と人間」で職業人としての考察を深めさせる。 		
具体的な取組状況 (1～2月記載)	<ul style="list-style-type: none"> 学校職場施設見学や進路ガイダンス、進路希望調査を実施した。また、マイライフプランを作成、発表する。 学年集会を利用し、多くの先生方に話をさせていただく機会を作った。 		D
達成状況 (1～2月記載)	<ul style="list-style-type: none"> 系列別に将来必要とする資格や進学先など、マイライフプラン作成を通じて個別に助言した。 学年部の先生の思いを聞くことで、自分の将来の姿を考えさせた。 		
自己評価 (1～2月記載)	A	担任を中心に、生徒一人一人の悩みごとを、察知し、円滑な人間関係を築けるよう対応できた。職場見学などを通じ、進路意識を持たせることができたと考えている。	C
評価基準	A: 具体的な活動がなされ目標を達成できた B: 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない C: 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない		
学校関係者評価と意見	A	3年間の高校生活を送る生徒の初年次に、円滑な人間関係を構築でき、また進路意識の醸成を実現したと評価できる。	C
自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策(学校評議員会終了後記載)	高校生活初年度なので、人間関係や、基礎生活習慣、体力などまだ醸成できていない生徒が大半である。心穏やかに生徒に寄り添い2年後に迎える進路決定に耐えられる生徒になれるよう、学年部一丸となって取り組んでいく必要がある。		A

評価領域	2年部
------	-----

重点目標	(1)基本的な生活習慣を確立し、周囲とよりよい人間関係を築くことができる。 (2)経験を重ね視野を広げ、社会における自他の役割を理解し、様々な活動に対し主体的に取り組むことができる。 (3)自分の将来像を明確にし、目標の実現に必要な資質や能力を高めることができる。	P
現 状	・1年次の人間関係から抜けようとせず、新しい人間関係をなかなか作れない。 ・他者の失敗や不利益に対し、軽率な行為や発言が見られる。	
具体的な目標	(1)場に合わせた振る舞いを身につけさせ、日常生活の中で実践させる。 (2)規則正しい生活を心がけ、課題の提出を徹底し、家庭学習を習慣化させる。 (3)探究の時間や学習活動、学校行事等を通して、協調性や課題解決能力を養うとともに、学力の向上に努める。	
目標達成のための方策	・マナーやルールについて、継続的、具体的に丁寧に指導する。 ・社会性や社会人としての自覚の育成を図り、学校の外で「知らない大人」と話す機会を重要視し多く設けた。	
具体的な取り組み状況 (1～2月記載)	・全生徒がインターンシップを実施した。 ・関西圏への修学旅行では、自主研修等の時間を多くし、自発的な活動を通して生徒の成長を促した。 ・地域連携活動や体験活動等、積極的に外に出る機会を多く設けた。	D
達成状況 (1～2月記載)	・インターンシップで自分の将来の仕事を真剣に考える機会を得た。 ・修学旅行では時間やルール等を守り、団体行動がよくできていた。 ・クラス単位で活動できる時間が極端に少ない。特に「探究」の進度に大幅な遅れがある。	
自己評価 (1～2月記載)	B 学校外では場をわきまえた行動ができるが、校内での日常の学校生活では幼い思考による行動、発言が多く見られる。	C
評価基準 A:具体的な活動がなされ目標を達成できた B:具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない C:具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない		
学校関係者評価と意見	B 学校にも慣れて自己主張をしたいのではないか。春からは最高学年として自覚を持ち学校生活を送ってほしい。	C
自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策(学校評議員会終了後記載)	・企業訪問やインターンシップ、学校訪問や各種模擬試験、ボランティア活動など、これまでの様々な学習や活動を踏まえ、生徒全員の進路志望の実現のために、教職員一丸となって日常の指導や支援をさらにきめ細かく充実させていきたい。 ・探究活動が2年目に入る。時数が半減するので、早期に次の活動を再開させ、探究活動が主体的で深い学びになるように支援していきたい。	A

評価領域	3年部
------	-----

重点目標	(1) 進路の実現に向けて、情報収集し努力できる。 (2) 高校生らしい整容を心がけ、責任ある行動を取ることができる。 (3) 思いやりと協調性を持って行動し、周囲に配慮できる。 (4) 最高学年の自覚を持ち、他学年の模範となることができる。	P
現 状	前年度に比べると、全体として進路に向けて積極的に行動できるようになった。しかし、公共の場において周囲に対する配慮の足りない生徒がいる。	
具体的な目標	(1) 進路に関する情報を積極的に収集させ、計画的に学習させる。 (2) ルールやマナーを守り、物事を最後までやり遂げさせる。 (3) 行事等を通じ、連帯感や自己有用感を育む。 (4) 学校行事・部活動に主体的・意欲的に取り組む姿勢を育てる。	
目標達成のための方策	・進路指導部と連携し、面談や個別指導を適切な時期に行う。 ・保護者への説明、協力依頼をこまめに行う。	
具体的な取り組み状況 (1~2月記載)	・進路指導部、各系列、教科等と情報交換を行い、連携して進路指導や生徒指導に当たった。 ・保護者には積極的に来校を願い、三者面談や四者面談を行った。	D
達成状況 (1~2月記載)	・進路は多数の先生方のご協力を得て順調に決まった。指導は、面接練習や個人添削指導、服装や礼法など多岐にわたった。 ・進路実現のための努力を通して成長した生徒がいる一方で、未だにマナーやルールが守れない生徒もいる。	
自己評価 (1~2月記載)	B 卒業まではわずかな時間しか残されていないが、声をかけ続けていきたい。	C
評価基準	A: 具体的な活動がなされ目標を達成できた B: 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない C: 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない	
学校関係者評価と意見	B ルールやマナーが守れない生徒の存在は、高校だけの努力で解消できるとは思えない。	C
自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策(学校評議員会終了後記載)	全職員の連携で、生徒の進路希望を達成できた。中学時代にコロナを影響を強く受け、コミュニケーション面に不安を抱える生徒が多かったが、分掌や系列の支援に支えられて、高校生活最後の1年を乗り切ることができた。一方、保護者との連携については改善の余地がある。「具体的な方策に、家庭との連携項目を入れ、家庭と共同で目標達成を目指すことも必要ではないか」という提言があったが、この学年には、それが必要だったと思われる。	A

評価領域	国語科
------	-----

重点目標	生徒一人ひとりが確かな読解力と自分の考えを的確に表現する力を身につけられるよう支援する。		P
現 状	与えられた課題は提出するが、自ら学ぶ姿勢はあまり見られず、時間をかけて読んだり書いたり、じっくりと考えて結論を導いたりすることが苦手である。進学希望者も全国模試の成績は振るわない。		
具体的な目標	「すぐに模範解答を求める（解答を写す）」「考える前に友達に聞いたり、パソコンで答えを調べたりする」から脱却させ、「(間違いを恐れず) まずは自分で考える」態度を育てる。		
目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> ・「自分の力で最後まで答えた」ことが評価できる授業を実施し、発表やプレゼンの機会を多く取り入れる。 ・模範解答自体の分析を通して、自らの解答と比較検討する。 		
具体的な取り組み状況 (1～2月記載)	<ul style="list-style-type: none"> ・ある程度の分量の書く課題や感想を一単元の中に必ず取り入れる。 ・考査ごとに長文小テストを実施している。 ・単元ごとに鑑賞したり考察したりした内容を記述させている。ICTを活用しながら一人ひとりの学習状況を可視化している。 		D
達成状況 (1～2月記載)	授業形態としてのペア学習やグループ内での発表、課題の提示、小テスト等、さまざまな手立てを継続中である。		
自己評価 (1～2月記載)	B	生徒の理解度や気質の変化に注意しながら、現在の取組を継続させる。	C
評価基準	A：具体的な活動がなされ目標を達成できた B：具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない		
学校関係者評価と意見	B	言語活動は社会的な要請で、より重要になってきている。「まずは自分で考える」態度の醸成は難しい課題であるが、いろいろな手法で指導していることが伺える。	C
自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策 (学校評議員会終了後記載)	新しい教育課程に移行し、従来より社会的な理解力・読解力・表現力の育成が重要になってきているように感じる。他と協働して課題を発見したり解決したりするような問題提起をしかけて、自発的に学ぶ環境を作っていきたい。調べ学習や意見交換する場面においてもICTを積極的に活用できるよう、教員側も研修を積んでいく必要がある。		A

評価領域	地歴・公民科
------	--------

重点目標	(1) 基礎的・基本的事項の定着を図る。 (2) 生徒の主体性を重んじ、この充実を図る。 (3) 現実の社会的事象について興味関心を抱かせる。	P
現 状	本校では多くの生徒にとって必修科目という位置づけになっている。受験科目として選択する授業は固定されているので授業内での対応は可能である。	
具体的な目標	就職試験や社会人となってからの生活に必要なとされる基本的な知識・教養と、深い学びを身に付けさせる。	
目標達成のための方策	電子黒板やタブレット等の活用を通じて社会的事象に関する興味関心を高めるとともに、教員と生徒との対話を活発に行うことで、思考を深める。	
具体的な取り組み状況 (1~2月記載)	電子黒板やタブレットなどの視聴覚教材を効果的に使用し、生徒が地理・歴史的知識を具体的に認識する機会を設けている。また、あえて詳しく触れずに、タブレットを用いた調べ学習を通じて認識を深めさせ、興味関心を引き出そうと取り組んでいる。	D
達成状況 (1~2月記載)	電子黒板やタブレットの機能を理解し有効に活用している。インターネットで調べることで少し意欲が湧いてきた生徒もいる。	
自己評価 (1~2月記載)	B 生徒が深い思考を身につけたとはいえないものの、様々な考え方を提示できていると思う。大きな成果がでたとはいえないが、継続していくことが大切と思う。	C
評価基準	A: 具体的な活動がなされ目標を達成できた B: 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない C: 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない	
学校関係者評価と意見	B 電子媒体で課題を調べるのも才能の一つであるので、興味あるところから伸ばしてほしい。	C
自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策 (学校評議員会終了後記載)	生徒はタブレットを扱うことについては苦勞することなく取り組むことができるものの、インターネットから写し取ることしかできない生徒が多いという大きな問題がある。やはり大切なことは学習内容を深く洞察できるようになること、自分の言葉で学習内容を説明できることであることから、ICTを利用しつつも、生徒の力を伸ばすために、従来の手法も交えながら、よりよいやり方を模索していくつもりである。	A

評価領域	数学科
------	-----

重点目標	(1)生徒一人ひとりが関心をもち、意欲的に参加できる授業を展開する。 (2)学習習慣を身につけさせ、基礎学力の定着を図る。 (3)週末や長期休業の課題を工夫し、学力の向上を図る。 (4)大学入学共通テストや大学の個別試験に対応できる力を養成する。	P
現 状	(1)授業では集中力が続かない生徒もいる。 (2)家庭で学習する習慣がない生徒が多く、基礎学力が定着していない。 (3)課題を提出を課しても解答を写すだけだったり、そもそも提出できない生徒がいる。 (4)進学者の多くが推薦試験での受験のため、一般受験で数学を受験する生徒はほとんどいない。	
具体的な目標	・電子黒板やタブレットを活用して生徒が集中できる授業の展開方法を研究する。 ・課題の出し方を工夫し、学習習慣を身につけさせる。 ・補習や添削を通じて、総合型入試やA0入試などの様々な形態の大学入試に対応できる数学的思考力と記述力を身につけさせる。	
目標達成のための方策	・ICTを活用した授業展開を日々の授業に取り入れる。 ・書き込み式の問題集や課題を課すことで学習習慣の定着を図る。 ・生徒の進路目標に合わせた補習や添削を実施する。	
具体的な取組状況 (1～2月記載)	・Google classroom等を活用した授業展開に各教員が取り組んだ。 ・週末課題の間隔や内容を工夫し、内容が定着するようにした。授業内で単元テストを実施した。 ・1、2年生は長期休業中に補習を行い、3年生は進路目標に応じて個別指導を行った。	D
達成状況 (1～2月記載)	・授業中、授業後など様々な形でICTの活用を試みたが、学習内容によっては工夫が必要であることがわかった。 ・各種アンケートの結果によると、生徒の半数が授業を理解できていないと回答した。	
自己評価 (1～2月記載)	B ・授業展開の工夫は今後も継続したい。 ・授業中の生徒の理解度を丁寧に観察し、個別の対応を充実させたい。	C
評価基準	A：具体的な活動がなされ目標を達成できた B：具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない	
学校関係者評価と意見	B 生徒の理解の状況をアンケートや観察などで十分に把握し、基礎学力が定着できるように授業の工夫をしてほしい。	C
自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策(学校評議員会終了後)	生徒の学力差が開き、さらに基礎学力が定着していない生徒が多い現状に対して、授業の工夫に一層取り組みたい。授業のレベルを下げてもそれに応じて生徒のレベルも下がってしまう。一方で授業が分からないままでは学力はつかず、授業への意欲的な参加は難しいので、授業で扱う内容の精選や課題をレベル別に出すなど生徒の実態に応じた指導方法について検討したい。	A

評価領域	理科
------	----

重点目標	1 自然の事象・現象について問題解決の活動に主体的に取り組む力を身に付ける。 2 予想や仮説を基に、見通しを持って観察、実験に取り組み、実学を通し理解を深める。 3 ICTや実験観察を自身の資料作成に活用する技量を高める。		P
現 状	1 知識を基に表現する力が不足している。 2 1つ1つの単元に沿った実験観察は実施できていない。 3 電子黒板等、視聴覚機器を利用している。classroomを利用し、課題の提出や添削を行っている。		
具体的な目標	1 問題解決に必要なデータをまとめ、表現する力を身に付ける。 2 実験観察を定期的に行い、操作等も含め、実験技術を身に付ける。 3 ICT機器を活用し、実験データをまとめる技量を高める。		
目標達成のための方策	1 一方通行の講義形式だけではなく、グループワークを用いた生徒が主体的に動く授業展開を行う。 2 ICTを活用した教材の研究開発を行い視覚的にも理解を深める。 3 生徒、教員がICTを活用する能力を高め、実験データ等のやりとりを通し、細部まで効果的な学力向上を目指す。		
具体的な取組状況 (1~2月記載)	1 コロナの制限も緩和され、グループワークを気兼ねなく行うことができています。 2 教材の精選を行い、中和滴定を行う新しい機材も導入していただいた。ICTと併用しながら授業展開を進めている。 3 繰り返し操作を行うことで、生徒、教員共にデバイスとシステムに順応してきている。		D
達成状況 (1~2月記載)	1 ただ取り組むだけではなく、課題への深掘りが必要となっている。 2 実験結果を考察するために必要な時間が十分にはとれてはいない。 3 共通理解の元、生徒、教員間のやりとりができています。		
自己評価 (1~2月記載)	B	カリキュラムに沿った授業を展開した。classroomでの問題演習や実施できない実験は動画を通して実施する等、教員内で工夫がみられた。電子黒板も有効に活用している。	C
評価基準	A：具体的な活動がなされ目標を達成できた B：具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない		
学校関係者評価と意見	B	<ul style="list-style-type: none"> 地球で起こる災害の原理を学んで欲しい。 考察する時間を確保し、「楽しい理科」を生徒と共有してほしい。 	C
自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策(学校評議員会終了後記載)	実験回数が著しく確保できていない。薬品等、教材の整理整頓、破棄を行い、使いやすい実験室の環境づくりが急務である。各教科担当の工夫によりカリキュラムは問題なく行うことができていますが、演示実験、動画視聴ではない実学をより多く取り入れていきたい。 次年度に向け、教材研究とICT教育の更なる研鑽を積み、よりよい授業が展開できるよう精進を重ねていきたい。		A

評価領域	保健体育科
------	-------

重点目標	各種運動の合理的な実践を通して、運動への興味関心や運動を主体的に行う能力などの生涯スポーツの基礎的な資質を養う。		P
現 状	運動に興味を持ち積極的に取り組もうとする生徒が男女問わず増えている。技能の向上を図り、「できる」喜びを味わわせることで運動習慣の定着につなげたい。		
具体的な目標	自ら運動の計画を立て、グループごとに主体的に実践し、振り返る活動をとおして、運動に主体的に取り組む能力を育てる。		
目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的に振り返りの活動を行えるよう学習カードを工夫する。 ・運動の苦手な生徒に対しての支援の方法を工夫する。 ・タブレットを活用した振り返り。 		
具体的な取組状況 (1～2月記載)	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返りのポイントを整理した学習カードを用いた。また、タブレットを活用し、動画で自分の動き等を振り返る機会を設けた。 ・運動の計画を立てる際、またその振り返りをする際にグループで話し合い、教え合いする機会を設けた。 		D
達成状況 (1～2月記載)	生徒の主体的な活動の中で技能の向上を図ることができている。また、運動経験が少ない生徒ほど自己の体をどのように動かしているかのイメージが乏しい傾向があるので、動画による振り返りが効果的だったと感じている。		
自己評価 (1～2月記載)	B	運動の興味を持って取り組む生徒が増えている。また、積極的に運動に取り組む生徒が見られたことで技能の高まりも見られた。	C
評価基準	A: 具体的な活動がなされ目標を達成できた B: 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない C: 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない		
学校関係者評価と意見	A	<ul style="list-style-type: none"> ・運動に興味を持つ、あるいは積極的に取り組む生徒の増加など、十分な成果を上げており評価できる。 ・今後も効果的にタブレットを取り入れてほしい。 	C
自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策(学校評議員会終了後記載)	運動に興味を持ち積極的に取り組む生徒が増えていることは、今年度のみならず、近年保健体育科内で目的や課題意識、改善の手立てなどを共有し、継続的に取り組んできた成果だと感じている。 さらに教材研究などを充実させ、生涯スポーツの基礎作りをしたい。 課題として、夏季休業明けに気温の高い日が続き体育館での授業が困難な時期が合った。来年以降も猛暑であることが十分に考えられる。座学である体育理論を取り入れる時期を変更するなど年間指導計画の見直しを図りたい。		A

評価領域	芸術科（音楽・美術・書道）
------	---------------

重点目標	芸術の諸活動を通して生涯に渡り芸術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め芸術の諸能力を伸ばし豊かな情操を養う。		P
現 状	興味関心の高い生徒は、楽しんで表現や発表に積極的に取り組み、新たな技法や表現方法の習得を進めている。一方で与えられた課題に終始して、自分らしい表現まですすめない生徒も見られる。		
具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒自身の表現を「探究的に進める」ことが必要となる課題や発表方法について授業内容を研究し実践する。 ・科目間連携を図りながら、複合的・横断的学習を実現する。 ・これからも楽しんで取り組めるよう芸術を愛好する雰囲気を作る。 		
目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> ・鑑賞（理論を含む）と表現に関連を持たせた授業計画と実践。 ・探究的に活動し、生徒相互が認め合い楽しめる環境をつくる。 ・少人数、選択性の良さを生かし、個性を生かす指導をすすめる。 		
具体的な取り組み状況 (1～2月記載)	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒個々に応じた課題や表現内容の設定。 ・互いの作品や発表を鑑賞し、楽しむことで相互に認め合う授業実践。 ・科目間連携により、鑑賞に特化した「芸術文化鑑賞」の実践。 		D
達成状況 (1～2月記載)	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の表現や考えを、文章や展示、発表を通して伝えており、生徒同士が鑑賞し合うことで、様々な技能や多様な感性への理解が深まり、楽しみながら取り組むことができている。 		
自己評価 (1～2月記載)	A	生徒が楽しんで発表や制作に取り組み、技能向上している。生徒相互に表現を認め合う雰囲気が醸成されている。	C
評価基準	A：具体的な活動がなされ目標を達成できた B：具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない		
学校関係者評価と意見	A	興味あるものを鑑賞して欲しい。楽しんで芸術に触れることは素晴らしい。相互に表現を認め合うことは大切である。	C
自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策 (学校評議員会終了後記載)	自分の感性を表すことができるように、様々な表現を試み、技能向上を図れる内容や指導方法を深めてゆく。 表現すること、鑑賞することを楽しみ、感性や技能が向上してゆくように指導を進める。 生徒がお互いの気持ちや表現を理解しあうことができる雰囲気を大切にこれからも授業を展開してゆく。		A

評価領域	英語科
------	-----

重点目標	1 基礎的事項の定着を図り、進路に応じた学力の向上を図る。 2 英語で積極的にコミュニケーションを図る態度を育成する。	P
現 状	英語を苦手とする生徒が多いが、自ら発信することやICTを利用した言語活動に意欲的に取り組む生徒が多い。こうした現状を踏まえた効果的な学習活動を提供することで基礎力の向上に期待が持てる。	
具体的な目標	1 学習活動における間違いは英語力向上のために必要なことであることを理解させ、発信する意欲を失わせない授業を日々実践する。 2 基礎力の定着を重視した週末課題を提供し、それらを日々の授業での学習活動とリンクさせることで自ら学ぶ態度の更なる育成を図る。 3 実用英語技能検定試験等の各種検定試験の受験を奨励する。	
目標達成のための方策	1 他者との英語でのやり取りを通じた達成感が学習意欲の向上の一助になるよう、ねらいを明確にした授業実践を心がける。 2 単語テストや週末課題を継続して行い、自ら英語を発信するために必要な語彙力の習得及び文法の運用能力を高める。 3 英語力を高めるペアワークやグループワークの在り方やICTの活用方法を英語科教員間で共有し、生徒がより主体的に学習に取り組む環境作りの醸成に尽力する。	
具体的な取組状況 (1~2月記載)	1 単語テストや週末課題を定期的に行うことで基礎力の向上に努めた。 2 授業での発問や場面設定を工夫することで、生徒が自分の考えを英語で発信しやすい環境作りに努めた。 3 授業内で英語検定に関連した問題演習を行い、資格取得を学習目標の一つとすることで英語学習に自ら取り組む態度の育成に努めた。	D
達成状況 (1~2月記載)	1 英語科教員間で、考査や模試の結果や週末課題から苦手とする分野に関する指導のあり方について共通理解を図り授業改善に取り組んだ。 2 教員間で発問や場面設定を事前に話し合い、指導に生かした。 3 英検I B A受験ではCEFRのA2レベルに達している生徒数が約30人となっており、日々の学習の成果が徐々に現れている。	
自己評価 (1~2月記載)	B CAN-DOリストの到達目標と平時の学習活動との整合性を確認しながら、生徒の実態に即した言語活動の充実に尽力したい。	C
評価基準	A:具体的な活動がなされ目標を達成できた B:具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない C:具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない	
学校関係者評価と意見	A CAN-DOリストの到達目標を教員と生徒が共有し、生徒が達成感を感じられる充実した言語活動の実践に期待する。	C
自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策(学校評議員会終了後記載)	CAN-DOリストに基づき、生徒が主体的に学習に取り組み英語を学ぶ喜びを実感出来る授業作りを次年度も英語科教員全員で行っていく。 各種資格・検定試験の受験を奨励し、受験を希望する生徒には段階を踏んだ継続的な指導を行う。ICTを活用した英語の授業については、今後も各教員が様々な取り組みを行い、科内で効果的な活用法を検証しながら生徒の英語力を高める努力を積み重ねていきたい。	

評価領域	家庭科
------	-----

重点目標	家庭生活に関する基礎的な知識と技術を体験的に習得させ、豊かな家庭生活のあり方について理解を深めさせるとともに、これからの社会に対応できる能力と態度を育てる。		P
現 状	道具や食材の扱い方など基本的な内容についても生活経験に個人差が見られる。自ら課題を発見したり、解決したりすることは難しいが、実習など体験的な学習に対しては意欲的に取り組む生徒が多い。		
具体的な目標	普通教科「家庭」：授業で学んだことを普段の生活で実践し、よりよい生活につなげようとする態度や能力を育成する。 専門教科「家庭」：資格取得指導に力を入れ、基礎的な知識・技術の習得を活用できる応用力を身につける。		
目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> ・実習を充実させ、実生活につながる効果的な授業を工夫する。 ・家庭科技術検定（食物調理・被服製作・保育）の合格率100%を目指し、指導を工夫する。 		
具体的な取り組み状況 (1～2月記載)	<ul style="list-style-type: none"> ・実物で手本を示したり、動画を活用したりして、事前学習を行うようにし、事後学習でも写真を活用し実習したことを共有した。 ・各検定を受講者全員が受検し、検定を視野に入れた授業を展開したり、課題を準備したりして合格を目指せる体制を整えた。 		D
達成状況 (1～2月記載)	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習を思い出して実習に取り組んだり、「初めてだったが思っていた以上に簡単で、また作りたい」等の振り返りが多かった。 ・各検定の合格率は、食物2級（87%）であったが、食物（3級）・被服・保育は100%であり、検定に向けて努力する姿が見られた。 		
自己評価 (1～2月記載)	B	事前・事後の指導が、実習の充実につながる重要な要素であると実感した。各検定についても一定の成果を得られた。	C
評価基準	A：具体的な活動がなされ目標を達成できた B：具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない		
学校関係者評価と意見	A	目標を持って取り組む方法の一つとして各検定を利用することは効果的と考える。具体的な目標にも到達している。	C
自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	長い人生の中で幸せな家庭を築く力を育成することを目標に、様々な知識を確実に身につけることができるよう、各科目で単元を貫く目標を意識して授業を実践する。各検定もその一助として、継続して取り組んでいく。		A

評価領域	情報科
------	-----

重点目標	情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習活動をつうじて、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し、情報社会に主体的に参画するための資質・能力を育てる。	P	
現 状	情報伝達の必要性を考え、理解するうえで技術的な部分を学んでいる。		
具体的な目標	(1) 情報と情報技術及びこれらを活用して問題を発見・解決する方法について理解を深め技術を習得するとともに、情報社会と人との関わりについての理解を深めるようにする。 (2) 様々な事象を情報とその結びつきをして捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養う。		
目標達成のための方策	小グループでの活動によって、お互いに話し合うことで、苦手な部分も克服できる。		
具体的な取組状況 (1~2月記載)	<ul style="list-style-type: none"> 基本ソフトのスキルアップを定着する。 Life is tech Lessonを利用し、個人が自分のペースで自己実現学習の定着をはかる。 	D	
達成状況 (1~2月記載)	<ul style="list-style-type: none"> Word、Excel、Power pointの基本スキルが定着できた。 チュートリアル形式の学習は生徒にとって取り組みやすいものであった。 		
自己評価 (1~2月記載)	B 基本ソフトの定着や自己実現学習の定着ははかれたものの、プログラミング学習への取り組みが実現できなかった。	C	
評価基準	A: 具体的な活動がなされ目標を達成できた B: 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない C: 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない		
学校関係者評価と意見	B 密度の濃い目標に対して一歩ずつスキルアップしている。どの分野の仕事にもつながるスキルなので継続指導を希望。	C	
自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策(学校評議員会終了後記載)	実現できなかったプログラミング分野の取り組みを来年は実現できるようにしていきたいと思う。今年度実施した基礎スキルについては継続して実施していきたいと考えている。		A

評価領域	農業科
------	-----

重点目標	農業に関する基礎的な知識や技能を座学と体験的な学習の両面を通して習得させ、農業クラブ活動や地域貢献事業に参加しながら個々の進路目標の確立と進路実現へと繋げる。	P
現 状	農家出身者が少なく、農業後継者としての入学者も少ない。小学生の頃の農業体験や体験入学が選択理由となっている生徒が大半で、農業を将来的な職業と意識している生徒が非常に少ない状態である。	
具体的な目標	(1) 農業クラブ活動各種大会への積極的な参加 (2) 地元小学校への『野菜の出前講座』や『ゆりほんマルシェ』等への積極的な参加。	
目標達成のための方策	(1) 『家畜審査競技会』や『測量競技大会』への参加の為に補習等を行う。また系列の枠を越え、土木科教員の指導により測量の知識・技能を身に付ける。 (2) 地元小・中学校との繋がりを活かした授業展開を行う。	
具体的な取組状況 (1~2月記載)	(1) 『家畜審査競技会』『測量競技大会』の補習を計画的に行った。 (2) 地元小・中学校の学習活動内容を理解し、連携を密にした。	D
達成状況 (1~2月記載)	(1) 『家畜審査競技会』は担当者の手厚い指導により、全国大会出場1名、東北大会出場1名(優秀賞)が達成できた。また『測量競技大会』では入賞はできなかったが、農業科-土木科の系列間連携という効果的な教育活動が展開できた。 (2) ①西目小学校『野菜植え付け講習会』参加 ②西目中学校『人権の花運動』参加 ③『ゆりほんマルシェ』参加 ④西目中学校『草花植え付け講習会』参加(※大雨により中止)	
自己評価 (1~2月記載)	A 全ての目標達成には至らなかったが、次年度は取り組み方を工夫し、更に目標達成できるようにしたい。	C
評価基準	A:具体的な活動がなされ目標を達成できた B:具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない C:具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない	
学校関係者評価と意見	A 目標達成の為に方策・取組で成果を上げている。農業後継者育成は難しいが、農業の魅力を発信することが必要ではないか。	C
自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策(学校評議員会終了後記載)	地域との連携を強く期待されている(県農政部・地域振興局・ニューバィオファーム・折林ファーム等)と感じた。今後も「産学官民連携」を強化し、スマート農業を軸に就農へ興味を引き出す指導をしていきたい。 また本荘由利地域に限定せず、秋田県全域の農業の特徴を学びながら、就農の可能性を探る指導をしていきたい。今後は農業科学館や種苗交換会などにも生徒の興味・関心を大いに刺激する体験学習を企画したい。	A

評価領域	工業科
------	-----

重点目標	地域振興局と由利建設業協会と地域との連携を密にし、明確な進路意識や職業観の育成を目指し、工業（土木系）への積極的な進路選択ができるようにする。		P
現 状	昨年は公務員が1名であった。今年度は3名の希望者がおり、県外の公務員を希望している生徒もいる。地元定着を見据えて、1年次から目標を定めて着実に学力を高める必要がある。		
具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> ・公務員希望者全員第一希望への合格 ・授業を展開しながら国家試験合格率を全国平均より高い測量士補40%、2級施工管理技術80%の合格率の達成をめざす。 		
目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> ・資格取得のために授業の内容を2年次のスタートから取り入れることで生徒のモチベーションを上げていく。 ・地域振興局と建設業協会連携した事業を実施し体験させる。 		
具体的な取り組み状況 (1～2月記載)	<ul style="list-style-type: none"> ・3年生の就職希望者との面談を実施する。地域行事の測量大会や現場見学を年間で2回以上実施できた。公務員の全員一次試験合格、全員第一希望への合格は達成することができなかった。 ・新たな事業として鳥海ダム見学会を実施できた。 		D
達成状況 (1～2月記載)	<ul style="list-style-type: none"> ・公務員は全員が合格し国土交通省3名、秋田県庁1名、由利本荘市1名である。測量士補合格者は残念ながらいなかった。あと2問が1名あと3問が4名と5名が合格圏内であった。 		
自己評価 (1～2月記載)	B	国家資格である測量士補、施工管理技術検定の合格をめざし継続して取り組みたい。	C
評価基準	A：具体的な活動がなされ目標を達成できた B：具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない		
学校関係者評価と意見	B	公務員は受験者全員が合格し、すばらしい。中学生への宣伝にもなり今後も継続して取り組んで欲しい。	C
自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策 (学校評議員会終了後記載)	公務員全員合格は、一年生から継続して取り組み学習した成果である。国家資格も施工管理技術検定は2名の合格者を出すことだできた。測量士補はあと2問で合格の生徒が多く、その生徒の解答できなかった問題を1年生から集中的に取り組み継続して取り組んでいくことが今後の課題である。		A

評価領域	商業科
------	-----

重点目標	商業の見方考え方を働かせ、実践的体験的な学習活動を行うことなどを通して、ビジネスを通じ、地域産業をはじめ経済社会の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な資質・能力を育てる。		P
現 状	<ul style="list-style-type: none"> 実践的体験的な学習活動に対し、お互いに協力して取り組んでいる。 各自のレベルにあった検定目標を立て、合格しようとする姿勢がうかがわれる。 		
具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> 実践的体験的な学習活動の問題解決に対して、主体的に取り組む姿勢を育む。 各種検定試験に合格し、上級の資格取得に挑戦する態度を養う。 		
目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の主体性を尊重しつつ、要所で適切な指導をする 生徒一人一人の習熟度を見極め、合格圏内の受験級を適切にアドバイスする。 		
具体的な取組状況 (1~2月記載)	<ul style="list-style-type: none"> 実践的体験的な学習活動に対し、発表の機会を作った。 1月の検定に向け、冬休みの課題を多めに準備し、毎日練習問題に触れるように工夫した。 		D
達成状況 (1~2月記載)	<ul style="list-style-type: none"> 実践的体験的な学習活動は全員が意欲的に取り組み、地域の大学や企業の協力を得ながら、職業人として必要な資質や能力が身に付いた。 検定合格に向け努力不足の生徒が数名いるものの、目標とする受験級の実力は概ね付いてきた。 		
自己評価 (1~2月記載)	B	商業科内でビジネス会計系列の生徒の情報共有を図り、個に応じた指導ができた。	C
評価基準	A: 具体的な活動がなされ目標を達成できた B: 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない C: 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない		
学校関係者評価と意見	A	着実に実績を上げている。資格検定試験取得の努力を積み重ねてもらいたい。	C
自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策(学校評議員会終了後記載)	<ul style="list-style-type: none"> 実践的体験的な学習活動は、生徒の身に付ける職業人としての資質や能力を高めるため、地域の大学や企業や自治体との協力関係を継続して築いていきたい。 資格検定の合格率を上げるため、家庭学習の取り組み方や模擬問題の提示のしかたなどを検討していきたい。 		A